



2008
2月25日号

107
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

二つの放射線技師会

副会長 鈴木 憲二

平成20年もはや一月を過ぎようとしています、今年は暖冬の予測から一変厳寒となっているが放射線技師会も変貌の年になろうとしている。

昨年12月に開催された定款改正の伴う諸規定関連の第65回臨時総会で定款の認可について熊谷会長が話したことと厚労省からの返答について矛盾が生じていて、いくつかの都道府県技師会から抗議声明文、質問書等が出されている。日本放射線技師会の代表者としての熊谷会長には是非この矛盾点について回答する事を望む。今回の改正により福島県放射線技師会が北関東地域から東北地域（東北6県）になった。北関東地域放射線技師学術大会には本県からの演題も参加者も少なく、寂しい限りであったが会員との交流の面では東北地域の方が慣れ親しんだ地域でもあり今後はより活発な活動が出来るのではないかと思う。

皆さんもすでにご存じと思いますが、日本放射線技師会と福島県放射線技師会は別々の組織となります。従来とは違った形で都道府県に地方技師会とは違う「地区責任者」をおき「地区責任者」に日本放射線技師会の事業等を委託する。この地区責任者の選出は日本放射線技師会会長が行うようになっていたが「当該地区で選出する」に変更された。そのような中で福島県放射線技師会は以前から福島県放射線技師の資質向上と地域医療への貢献を目的として独立した組織として活動を行ってきた。また福島県放射線技師会の一員として自覚して活動できるように現在、(社)福島県放射線技師会 会員証を作成中です。来年度早々には会員の皆様に配布できるように準備中です。

また法人制度改革が今年から始まる。公益社団法人に移行するには公益的事業を行うことを主たる目的としていなければならないが、福島県放射線技師会は定款第3条に示すように診療放射線技術の向上発展と診療放射線知識の啓もう並びに会員の職業倫理の高揚により、診療放射線検査の適正を確保するとともに、県民に対し診療放射線知識の普及をはかり、もって県民医療の向上に寄与することを目的としているので問題はない。しかしながら組織、財務内容等検討していかなければならない課題も多い。

最後に会費納入ですが前回の福島放技ニュースVol.106に掲載したが、平成20年度日本放射線技師会会費納入は平成20年2月頃に各会員に振込用紙が送付されますので会費（年15,000円）を平成20年4月1日までに お支払い下さい。（福島放技ニュースVol.106では3月31日となっていたが、訂正します）福島県放射線技師会会費は平成20年度になってから各会員に振込用紙が送付されますので会費（年10,000円）を平成20年9月30日までに お支払い下さい。

福島県放射線技師会会員として、なお一層のご協力をお願いしたい。

第15回 福島県画像技術研究会開催される

平成20年1月19日に福島県画像技術研究会が福島テレサにおいて開催された。

毎回、放射線技師が求める画像技術を幅広い分野から取り上げている研究会であるが、今回のテーマは胸郭内臓器である。

最初の講演は「虚血性心疾患における心臓MRIの有効性について」と題して大田西ノ内病院 循環器科 部長の小松宣夫先生のお話であった。

最近話題も多く臨床での利用が広がっている心臓MRIだが、携わっている先生から直接お話を聞く機会は少ない。基礎から丁寧にお話いただき、現状と今後の利用法など有用性を示していただいた。心臓検査の分野も冠状動脈に関しては心カテからマルチチャンネルCTへ心筋等に関しては核医学から心臓MRIへと置き換わっていく割合が確実に増えていく方向が示された有意義な講演であった。

二つ目の講演、「呼吸器領域における解剖と画像診断」と題して大原総合病院 副院長の森谷浩史先生のお話である。

“われわれのしている画像は必ずしも正しい情報を表しているとは限らない”と刺激的な言葉で始まり、基本的な解剖や画像の成り立ちを示していただいた。

特に呼吸器領域のように、吸収差や動きの大きい被写体を体位や角度、呼吸などさまざまな要因を一瞬にして止めて作り出す影絵の写真では、予想外の写り方をすることもある。

正確な解剖の知識と、撮影技術の理解、そして患者さん本人の体型や動きの観察など幅広い情報が一枚の写真の読影には必要なことを改めて感じさせられた。

二つの講演とも新鮮な切り口と非常に興味をそそる話で、時間を忘れるほどだった。

緊急被ばく医療「福島フォーラム」開催

平成20年2月16日いわき市ワシントンホテルにおいて平成19年度緊急被ばく医療「福島フォーラム」が開催された。

10時半から始まった講演は、放射線事故の歴史、放射線の基礎知識と進み、昼食休憩を挟み緊急被ばく医療の実際、そして机上演習として想定事故の緊急被ばく医療の内容であった。参加者は34名であったが、放射線技師が12名、原発関係者9名、消防関係7名、その他医療関係者6名と様々な職種の受講者が参集した。

机上演習では、職種のバランス考慮し全体を5班に分け、各班で話し合い設問に答える形式をとった。事故の状況や被害を受けた患者の状態が示され、現場や搬送中や搬送先でどのように対処するかの演習である。これが

なかなか面白く、事業所の意見、救急隊の意見、病院の意見と職種、立場が違うと経験や考え方も違うし、最初に思いつく内容も異なる。

それぞれの意見を羅列することになったが、このような機会はあまり無いので貴重な体験だった。

また、重篤な患者の場合、汚染拡大防止が優先なのか、生命が優先なのかなど判断が難しい局面も想定され、個々の職種の知識と技術の向上はもちろんだが、しっかりした体制作りとリーダーシップの必要性を感じた。

突然発生する緊急被ばくでは、各専門職種の連携と相互信頼が無くては機能しない、めったに無いことだからこそ、平日頃の準備が大きく影響する。

原発の多い福島県に住む放射線技師であれば、原発で事故があったらどう

したらよいか、頭の隅のほうでもよいので、たまには考える機会を持ってほしいものである。(八巻)



事務局からのお知らせ！

繰り返しのお知らせになりますが、日本放射線技師会の会費と福島県放射線技師会の会費はそれぞれ別に納付するようになります。定款変更に伴い「入退会等に関する規程」及び「会費納入規程」の改正により会費の納入期限が当該年度4月1日までと明記されその納入手段、方法が一部変更となります。

定款改正による大きな改正点は

- 1) JARTの年会費は、当該年度4月1日までの納入
- 2) JART年会費の納入方法は、JART分のみJARTに納入する。
- 3) 納入手段は「郵ちょ」と、銀行を利用する口座引き落としの2つの手段に限定された。

振込用紙発送は平成20年2月下旬に各会員へ送られる予定になっていますので、振込用紙で直接日本放射線技師会へ送金して下さい。県技師会費請求書は福島県から別に送付されますので、それで県に納入してください。福島県放射線技師会の会費は従来通り9月30日が納付期限となります。期限が守られませんが予算の面で不都合が生じる事となりますので、納付率100%となるよう、期限まで必ず納付されますようお願いいたします。会費の納付が二度手間になり、ご迷惑をおかけすることになりますが、ご協力の程よろしく申し上げます。

また、時節柄会員の移動などありましたら、速やかに各支部へ連絡されますようお願いいたします。

第18回消化器研究会及び平成19年度福島県成人病検診従事者指導講習会が開催

平成20年2月2日・3日、いわき市「新舞子ハイツ」にて第18回消化器研究会並びに平成19年度福島県成人病検診従事者指導講習会が開催されました。

今回は、上部消化管検査の副作用や検査に必要なノウハウ、また内視鏡検査の診断と治療など盛り沢山の内容となりました。

まず始めに、教育講演1「硫酸バリウム製剤の副作用とその対策」では、厚労省から通達があったバリウム投与の禁忌（ショック）や慎重に投与すべき事例（腸閉塞及び誤嚥の既往がある方）について注意喚起の仕方や事前防止策などを詳細に説明していただき、検査への安全管理に役立ててもらえたと思います。

次に教育講演2「胃X線検査～癌を見つけるために～」では、(財)宮城県対がん協会の金子貴安先生より、癌を見つけるためには何をしなければならないかについて施設の取り組みなどを例に紹介してもらいました。

癌を見つけるために役立つこととして“透視観察で考えなければならないことは何か？”“X線所見に対する精通”“追加撮影の目的とは何か？”私たちが明日からの検査業務ですぐにでも活かせる内容でした。



特別講演は、(財)慈山会医学研究所付属坪井病院の小澤俊文先生より、「食道及び胃の内視鏡診断と治療」と題して講演いただきました。上皮性の病変、非上皮性の病変、その良・悪性と順序立てて病変の形態をわ

かり易く講和いただきました。消化管X線検査に携わる技師は、早期で小さい癌の描出に日々研鑽していますが、内視鏡像を理解することによって、より質的診断が可能な画像を提供できるものと思います。また、非上皮性の病変やX線像には描出しにくい表在平坦型の病変についても内視鏡像を知ること



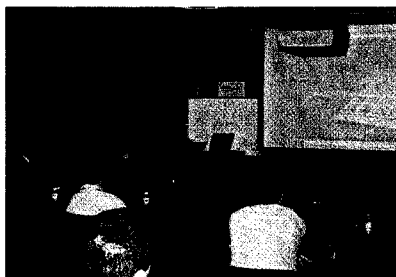
でX線像に表す一助になると考えます。最後に今講習会に、67名と多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。今回実施したアンケートを参考に今後も更なる内容充実を図っていききたいと思います。(亀山)

支部(便り)

浜通支部

相双地区消化器勉強会開催される

平成19年10月24日(水) 渡辺病院会議室にて相双地区消化器勉強会が開催されました。ふなばし内科クリニック院長 船橋 裕司先生より「部位別胃がんの着眼点と撮影工夫 -内視鏡との比較」、東芝メディカルシステムズ(株)鈴木 浩一先生より「消化器領域におけるフラットパネルシステムの動向とその有用性」という演題で講演を賜りました。船橋先生からは、精査に立ち会う放射線技師に求める事としては、目的にあった画像を提供してほしいとのことでした。そのためには、胃の解剖から胃がん肉眼分類までの知識を理解しておく必要があり、その重要性について学びました。



鈴木先生の講演では、FPDの利点として、透視観察の広範囲化、ハレーションの無い高分解能な画像を得られるという特徴がある

ようです。そしてCアーム式装置は、あらゆる角度からの撮影が可能となり、病変の正面像が捉えやすくなることとありました。次の機種はFPDと考えている会員も多いせいか、会場から質問もあり関心の高さがうかがえました。私たち自身も、より多くの情報を提供できるよう技術及び知識の研鑽に励まなければいけないと感じました。(花井)

いわき地区画像研究会新年会の開催

平成20年1月18日 報徳苑にていわき地区画像研究会の新年会を開催されました。

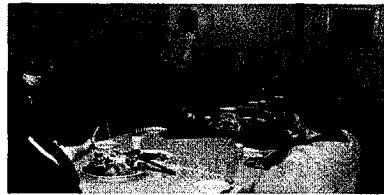
昨年、「いわき地区画像研究会」として新たに勉強会を発足して、年3回の勉強会を目標に行ってきました。まず、八巻浜通り支部長からの挨拶があり、諸先輩がいわき地区勉強会を作って頑張ってきたことの話ではじまり、世話人代表の呉羽病院の鈴木氏からの挨拶があり元浜通り支部長の佐藤さんの乾杯で新年会が始まりました。終了時間を忘れるほど、話に花が咲き盛り上がりしました。現在、放射線技師の交流の場が少なく、勉強会に参加しても挨拶程度、特に若い年齢層の方は、名前と顔が一致しなかったりしていたため、28名の参加とまだまだ数的には少ないものの有意義な交流会が出来ました。

本年3月には、マンモグラフィーの勉強会も予定されています。今後も多くの技師の方に参加して頂き、いわき地区の発展に繋がればと期待しています。(折笠)

会 津 支 部

第67回会津画像研究会の開催

平成20年2月1日(金)、竹田総合病院におきまして第67回会津画像研究会が開催されました。会津支部では毎年、年明け最初に行われる勉強会となっており、今回はほととトピックとして2



演題がありました。年明け最初の演題として、共催のバイエル薬品株式会社様から、新規MRI用造影剤である「EOB・プリモビスト注シリンジ」についての話題提供がありました。販売開始されてから間もないですが、肝臓MRI用造影剤としてすでに使用されているようです。今後はこの新規薬剤の使用経験報告や、従来品と比較したフィルムカンファレンスなど、いろいろな発表が行われることでしょう。もう一つの演題は、東芝メディカルシステムズ株式会社様から、MDCTの被曝低減技術についてと、昨年RSNA2007で話題をさらった世界初320列MDCTのご紹介をしていただきました。CT分野での動的解析や動画CTともいえる画像を目の当たりにして、医療機器の進歩の早さに驚くばかりでした。今夏あたりから販売開始予定とのことでしたので、今後は全国的にさまざまな研究や演題発表があると思うと、非常に注目すべきトピックであると言えます。

画像研究会終了後、簡単ながら会津支部新年会を開き、大いに盛り上がりました。(森谷)

県 北 支 部

「県北支部新年交流会」開催される

平成20年1月11日、福島テルサにおいて毎年恒例の新年交流会が行われました。席上、斉藤重夫支部長より新年の挨拶があり「新法人制度に向かってこれからは選別される時代になった。そのために県北技師会もより一層基盤を固め、会員の皆様の力をおかりしながら継続・発展できる様に頑張っていきたい」とのお話があった。また、片倉県技師会長からは「会員の一人一人が技師会に対し、講習会開催などの要望を出しながらもっと技師会を利用していただきたい。また今後、講習会等が開催される際には、地域や施設間の格差を生じさせず、全会員がきちんと講習を受けられるような仕組みを作らなければならない」とのお話であった。また最近の医療訴訟について触れられ「医療を提供する私たち放射線技師は、日頃より高度な知識と専門的な技術を研鑽していく姿勢が大切であり、それが患者様への信頼をつかんでいく事であ

り、またそれが本会の目的でもある」と語られた。その後、熊本雅章さんの乾杯の挨拶で開宴となった。例年より、会員の参加者数がやや少なかったものの、施設間やメーカーの方々との情報交流も盛んに行われ、大変盛りあがった新年会となった。本年3月には県北支部主催の勉強会が予定されており、今後も支部の活動を活発化するため、会員の皆様の積極的な参加を望みます。(池田)

県 南 支 部

県南支部新年勉強会開催さる

去る1月26日PM2:30～郡山ビックアイ7階にて県南支部の新年勉強会が開催された。まず吉田豊県南支部長の挨拶から始まり、以下の6演題の会員研究発表に加え、去年11月に行なわれた医大での県技師会学術大会に演題を提出された方で、支部規定をクリアされた方を対象に学術奨励賞の表彰が行なわれ



た。学術大会演題提出29題のうち12演題が県南支部関係であり、8演題が奨励賞を受賞した。さらに放射線管理士部会での長年の活動の集大成である発表に対し、特別賞として功労賞で表彰しその労に報いた。教育講演として西の内病院の新里氏から「PACSの安全な運用に向けて」との題で講演をして頂いた。これから益々普及していくシステムの為、データ管理とその人材・モニタに関して等実務に則した質問が多く出され関心の高さが感じられた。勉強会の後、場所を変え新年会を行なった。他院との情報交換や、メーカーの方からの新しい情報収集等に加え、毎回厚生委員により紹介されるお洒落な店の美味しいお酒により、情報交歓会は夜遅くまで盛り上がりました。(幕田)

- ①マンモグラフィ品質改善の取組 公立岩瀬病院 真船浩一
- ②腫込みベースメーカー患者に対する放射線治療 白河厚生病院 田代和広
- ③CR業務の効率化-フィルミング早見表- 白河厚生病院 金沢孝彦
- ④MRでの手関節撮像の改善 太田西の内病院 柳沼孝寿
- ⑤3Tでの腹部MRI検討 南東北病院 赤石沢孝
- ⑥MRCP陰性造影剤の比較 塙厚生病院 幕田節男

編 集 後 記

年明けにした今年目標は順調にクリアされていますでしょうか。来年度は診療報酬改定の年です。医療制度も4月から後期高齢者医療制度が実施され医療受給者の事情等完全無視し医療費を削減する事が第一目標になっているようです。国民皆保険の根幹を成す国民健康保険も格差社会の中でその形が崩れつつあり、適正な医療を受けられない人が増えています。医療制度に関心を持って行く必要があるのではないのでしょうか。(幕田)